濃厚、ジューシーな味が魅力のイチゴ新品種「いばらキッス」

1　背景と目的

本県のイチゴ栽培では、栃木県育成の「とちおとめ」が大部分を占めていますが、他県では県独自に育成したイチゴ品種をブランド化して有利販売につなげています。そこで本県においても県内産地の活性化を図るため、食味や形状が優れ、安定生産が可能な品種の開発を進め、新品種「いばらキッス」を育成しました。

2　研究成果の概要

○「いばらキッス」の特徴

主力品種の「とちおとめ」に比べ、次のような優れた特徴があります（表）。

・糖度が高くジューシーで、甘みと酸味のバランスの良い「おいしいイチゴ」です。

・赤色が濃い、光沢が強い、大きい、形状が揃っているという「優れた外観」を備えています。

・栽培期間を通して収量・食味の変動が小さく、総収量も多いため、「安定した販売」が可能です。

これらの特徴を発揮させるには、「品種に応じた栽培技術」を確立する必要があります。

表　果実品質及び収量調査結果

品　種	いばらキッス	とちおとめ
糖　度	10.3%	9.9%
酸　度	0.75%	0.74%
1果重	13.7 g	12.0 g
収　量	331kg/a	281kg/a

○「いばらキッス」の高品質生産技術の開発

「いばらキッス」の栽培上の留意点を明らかにしました。

・収穫開始期を早め、取引単価の高い12月の収穫量を増やすため、育苗期の施肥量は少なめにします。

・高品質な果実を得るため、植え付け間隔は広くします。

・生育が旺盛なため、厳寒期（12月下旬～２月）を除いては、気温を低めに管理します。

・果実品質を安定させるため、収穫開始後から少量ずつ窒素を追肥します。

3　実用化に向けた対応

「いばらキッス」の収量・品質を向上させるためには、「いばらキッス」に適した、施肥やかん水、温度管理などの栽培管理技術が求められます。そこで、「いばらキッス」栽培マニュアルを作成し、関係機関と連携して定期的にほ場巡回を行い、安定生産に向けた生産支援を行っています。

現地ほ場巡回

「いばらキッス」栽培に取り組んでいるＪＡ茨城旭村苺部会Ｅさん、Ｏさんの声

Ｅさん：「いばらキッス」は特性にあわせた作り方が必要ですが、果実が大きく、形状や食味の良い品種なので、県の主力品種になることを期待しています。

Ｏさん：栽培マニュアルに沿って、少しずつ「いばらキッス」に適した作り方ができるようになってきたと感じています。今後も高品質なものづくりと安定した出荷ができるようにしていきたいと思います。